

平成25年度 第4回

社会教育委員の会議

○日 時 平成25年12月18日（水）
午後2時00分～

○会 場 教育センター コミュニティホール

宇都宮市教育委員会

会 議 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 報告事項

- ① 「社会総ぐるみによる人づくり」の合言葉について 【資料1】
- ② 「第6回うつのみや人づくりフォーラム」及び「第6回うつのみや地域教育メッセ」の開催について 【資料2】
- ③ 「うつのみや人づくりフォーラム」に係る団体紹介について 【資料3】

(2) 協議事項

- ① 「社会の要請」の高まりへの今後の対応について 【資料4】

(3) 意見交換

- ① 関東甲信越静社会教育研究大会（栃木大会）について 【資料5】

3 そ の 他

4 閉 会

宇都宮市社会教育委員名簿

任期 平成25年7月1日～平成27年6月30日

No.	氏名	区分	備考
1	矢古宇好道	学校教育関係者	栃木県高等学校長会宇都宮支部(宇都宮工業高等学校長)
2	宇賀神貴	学校教育関係者	宇都宮市中学校長会(田原中学校長)
3	徳永幸子	学校教育関係者	宇都宮市小学校長会(雀宮南小学校長)
4	今井政範	学校教育関係者	宇都宮地区幼稚園連合会長(さくらが丘幼稚園副園長)
5	福田治久	社会教育関係者	公益社団法人宇都宮青年会議所 理事長
6	櫛淵澄江	社会教育関係者	宇都宮市地域婦人会連絡協議会会長
7	坂本宏夫	社会教育関係者	宇都宮市体育協会副会長
8	荻野久一	社会教育関係者	宇都宮市文化協会理事
9	橋本裕文	社会教育関係者	宇都宮市子ども会連合会会長
10	清島康伸	社会教育関係者	宇都宮市PTA連合会会長
11	吉田治	社会教育関係者	宇都宮市地域まちづくり推進協議会幹事
12	勝田健一	社会教育関係者	宇都宮市青少年指導員会会長
13	伊藤三千代	社会教育関係者	晁宝宮っ子ステーションコーディネーター
14	小池操子	家庭教育関係者	親学習プログラム指導者
◎	15 廣瀬隆人	学識経験者	宇都宮大学教授
	16 河田隆	学識経験者	宇都宮共和大学教授
	17 佐々木一隆	学識経験者	宇都宮大学教授
	18 山尾貴則	学識経験者	作新学院大学准教授
○	19 駒場昭夫	学識経験者	市議会議員
	20 菊地公史	学識経験者	市議会議員

- ◎ 委員長
○ 副委員長

「社会総ぐるみによる人づくり」の合言葉の市民による投票候補作品について

◎ 趣 旨

「社会総ぐるみによる人づくり」の合言葉の市民による投票候補作品について報告するもの

1 合言葉の募集結果

(1) 募集期間

平成25年10月1日（火）～平成25年10月31日（木）

(2) 募集要件

ア 社会全体が一体となって人づくりに取り組むことを促す言葉

⇒家庭，地域，学校，企業など「社会総ぐるみによる人づくり」の機運醸成に貢献できるものであること

⇒対象（保護者，団体等），活動主体（家庭，地域，企業等）を限定せずに使用できるものであること

イ 子どもを育むために，「大人」に対して訴えかける言葉

⇒大人が子どもの育成について役割と責任を自覚するとともに，大人一人ひとりが子どもの手本となるための行動目標にできるものであること

ウ 市民の誰もが共有できるよう，分かりやすくメッセージ性がある言葉

⇒一見で趣旨が理解できるものであるとともに，万人に共感が得やすい言葉であるもの

(3) 応募状況

・応募総数 235作品

【数：作品】

応募数	年 代					
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上
235	132	10	25	38	13	17
割合 (%)	56.3	4.3	10.6	16.1	5.5	7.2

2 合言葉候補の選定経過

①事務局は，235件の応募作品の中から応募要件を満たすものを絞るとともに，教育委員会事務局内の投票を行い，本市独自の人づくりの「合言葉選定候補」として23件を提案。

②うつのみや人づくり推進委員会委員は「合言葉選定候補」に投票を行い，決定。

・推進委員1人につき3票の持ち票とし「合言葉選定候補」への投票を行い，市民による投票を行うための最終候補を投票数に応じ，3～5つ選出。

3 最終候補作品一覧

番 号	合 言 葉
1	大人を見つめて子どもは変わる
2	子どもから大人まで 人間力向上宣言 宇都宮
3	育もう 地域の愛で 子どもの未来
4	宮っ子の手本 大人が魅せます 宇都宮
5	大人が手本を見せます 宇都宮

4 市民による投票

(1) 投票期間

平成26年1月14日（火）～平成26年2月15日（土）

(2) 投票方法

以下方法により投票を実施

ア 投票用紙による投票（郵送，持参，FAX）

※投票用紙は各地区市民センター等に投票箱及び投票用紙を設置

イ 市ホームページからのインターネット投票

ウ うつのみや人づくりフォーラムにおける投票（2月15日）

(3) 最終選考

最終選考は市民による投票結果，うつのみや人づくり推進委員会の協議結果を踏まえ，宇都宮市及び宇都宮市教育委員会が行う。

(4) 合言葉の発表

市長による合言葉の発表を行う。

5 スケジュール

平成26年1月14日～ 市民による投票（～2月15日）

2月15日 うつのみや人づくりフォーラム ※最終投票日

3月17日 うつのみや人づくり推進委員会（投票結果を踏まえた協議）

20日 教育委員会（審議）

27日 庁議（報告），市長による記者発表

第 6 回 うつのみや人づくりフォーラムの開催について

◎ 趣 旨

うつのみや人づくりフォーラムの開催概要について報告するもの

1 開催目的

「宮っこ未来ビジョン」の実現に向け、社会総ぐるみによる人づくりの推進を図るため、学校や家庭、地域、企業等の人づくりの取組を広く発表し、情報交換を行うことを通して、各主体が人づくりの重要性をともに考え、連携を深めるとともに、市民主体の人づくりの機運醸成を図り、市民一人ひとりが行動を起こすきっかけとなるよう、事業を開催する。

2 事業名称

第 6 回 うつのみや人づくりフォーラム 「夢をはぐくむまちうつのみや」
～みんなで考えよう！今の自分にできること～

3 開催日時・会場

平成 26 年 2 月 15 日（土） 午前 9 時 30 分～午後 2 時 30 分
宇都宮市立南図書館，県立宇都宮工業高等学校

4 主 催

うつのみや人づくり推進委員会

5 対 象

宇都宮市内児童生徒，保護者，一般市民 約 9,000 名

6 内 容

(1) 開会セレモニー

「宇都宮の歌」「みや！！元気っ子たいそう」「宮っ子の誓い唱和」など

(2) 子ども発表会「輝け！宮っ子ドリームステージ」

小学生～高校生で構成される団体等のステージ発表など

(3) 講演会及び読み聞かせ&ミニコンサート

〔出演〕岩村和朗（絵本作家）

大場俊一（大学名誉教授・ピアニスト）

大場文恵（大学准教授・ピアニスト・本市教育委員会委員長）

〔内容〕岩村氏による基調講演

岩村氏の「14ひきのあさごはん」の読み聞かせ，大場両氏による楽曲連弾

(4) 宮っこ体験コーナー

子ども向け職業体験「宮っ子タウン」，プロスポーツ体験教室，スポーツフレンドパーク，
宇工連携ロボット教室，食と体験のコーナー

(5) その他

授業力向上プロジェクトパネル展示，特別支援学級写真展，人づくり合言葉の投票
うつのみや地域教育メッセ など

第6回うつのみや地域教育メッセの開催について

◎ 趣 旨

うつのみや地域教育メッセの開催概要について報告するもの

1 開催目的

平成25年3月に策定した「第2次宇都宮市地域教育推進計画」に掲げる地域教育の推進を図るため、宇都宮市内を拠点に、地域で学んだことを生かし、現在活動を行っている、またはこれから行う意欲のある市民活動団体、自主活動グループや市民が、活動紹介・情報交換などの交流を通して、今後の活動の活性化や機会づくりの場となるよう事業を開催する。

2 開催日時・会場

平成26年2月15日（土） 午前9時30分～午後2時30分

宇都宮市立南図書館（ギャラリー等）

※「第6回うつのみや人づくりフォーラム」と同日開催

3 主 催

宇都宮市教育委員会（生涯学習課）

4 対 象

出展者：市民活動団体、各種ボランティア団体、マナビス登録講師等

来場者：一般市民（宇都宮市内の学校関係者・児童生徒や保護者を含む。）約9,000名

5 内 容

(1) 出展団体のパネル展示

パネル展示、資料配布、説明

(2) 出展団体の体験コーナー

工作や昔遊びなど、出展者による体験活動の実演

(3) マナビス登録者紹介コーナー

マナビス登録講師等紹介票の掲示や、マナビス登録者の自己PR

(4) 映像による本市の地域教育の取り組みやマナビス・出展団体（希望団体）の紹介

パワーポイントによる宇都宮市の地域教育の取り組みや、マナビス、出展団体（希望団体）についての紹介・説明

(5) 地域教育・生涯学習指導員による学習相談とアテンド（会場の案内・説明）

・地域教育指導員と生涯学習指導員による学習相談コーナー

・メッセ会場の案内や説明（来場者に対する積極的な声かけ）

(6) 有識者による出展者インタビュー（宇都宮共和大学 教授 河田 隆 氏）

出展団体を対象に、各ブースインタビュー（1時間程度）

(7) 出張！親学出前講座（生涯学習課職員）**新規**

来場者の中で子を持つ保護者を対象に、親学を実施する。

平成25年11月19日

うつのみや人づくり推進委員会
委員 各位

うつのみや人づくり推進委員会事務局

「うつのみや人づくりフォーラム」に係る構成団体紹介等について（依頼）

時下、貴職におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、標記の件につきまして、「うつのみや人づくりフォーラム」において、うつのみや人づくり推進委員会構成団体の紹介パネルの展示などを実施する予定です。

つきましては、下記のとおり各団体の概要パネルや活動紹介などの作成・確認をしたいと思っておりますので、御協力の程よろしくお願いいたします。

記

1 団体概要パネル・人づくりメッセージ

(1) 内容

- ① 団体概要パネル 団体の概要や主な活動のパネル紹介
- ② 人づくりメッセージ 団体の活動理念や目標をもとにした「人づくり」に関するメッセージ文

(2) 作成方法及び提出

- ① 作成方法 昨年度の団体概要パネルや人づくりメッセージをもとに加筆修正を行います。(新規団体は新たに作成)
- ② 提出 別紙「団体概要・人づくりメッセージ」を、平成25年12月25日(水)までに、FAX・Eメール・郵送・持参により事務局までお送り下さい。

2 活動紹介等

(1) 内容

団体において人づくり活動等のDVDを作成し、フォーラム会場内に設置したテレビで映写し紹介する。

(2) 出展の確認について

出展の有無について、別紙「活動紹介出展確認」を、平成25年12月25日(水)までに、FAX・Eメール・郵送・持参により事務局までお送り下さい。

(3) 製作物(DVD)の提出について(出展する団体のみ)

平成26年1月23日(木)までに事務局へDVDをお持ちください。

(4) その他

団体で作成している新聞や広報紙等の展示を希望する場合は事務局までご連絡をお願いいたします。会場の都合上、団体で独自作成したパネルの展示は予定しておりません。

3 その他

- ・ 提出様式(「団体概要・人づくりメッセージ」、「活動紹介出展確認」)の電子データの送信を希望する場合は、下記Eメールにてご連絡下さい。
- ・ 具体的な取組方法については、添付の資料をご覧ください。

うつのみや人づくり推進委員会事務局
(宇都宮市教育委員会教育企画課内) 担当 渡邊
TEL 632-2707/FAX 639-7159
Email u4612@city.utsunomiya.tochigi.jp

人づくり推進委員会独自の取組方法について

1 団体概要パネル

- 各構成団体の概要や主な活動について紹介する。
 ※昨年度と変更がある場合のみ作成する。(変更がない場合は既存のものを流用する。)
 ※新規参画団体は新たに作成する。

[イメージ]

- B2サイズ (76cm×54cm) のパネルを印刷 (委託作成 or ロール紙印刷貼付)

○○○○連合会 自己紹介文章 (50字程度) 構成員 組織構成 (役員, 委員会など) (図も可) 活動方針, 活動計画 主な事業
--

[作成方法]

- 原稿 (文面) を作成し, 事務局へ提出 ⇒ 事務局で印刷・作成

2 人づくりメッセージ

- 各構成団体の活動理念や目標をもとに, 「人づくり」に関する誓いやメッセージを簡潔に表現し, 紹介する。
 ※今年度の誓い・メッセージとして全団体が作成。(変更がない場合は既存のものを流用)

[作成方法]

- メッセージ (文面) を作成し, 事務局へ提出 ⇒ 事務局で印刷・作成

3 活動紹介

- 各構成団体において取り組んでいる人づくり活動の様子等を紹介する。

[DVD映写・作成方法]

- 各構成団体 (作成希望の団体) がデジタル画像に解説文を添えた DVD を製作し, 事務局へ提出 ⇒ フォーラム会場に設置した大型テレビを設置し映写

4 取組のスケジュール

平成25年11月下旬 各団体 (推進委員等) へ照会, 依頼

	①団体概要パネル ②人づくりメッセージ	③活動紹介 DVD	
対象	全団体	全団体	DVD 映写団体
提出物	文面のみ	活動紹介意向確認シート 展示の意向	デジタル映像 解説文
提出方法	FAX, Eメール, 郵送, 持参	FAX, 持参	Eメール, 持参
提出期限	12月25日 (水)	12月25日 (水)	1月23日 (木)

うつのみや人づくり推進委員会
 事務局（宇都宮市教育委員会教育企画課） 宛
 FAX 028-639-7159
 Email u4612@city.utsunomiya.tochigi.jp

提出締切：平成25年12月25日（水）
 【今年度新規参画団体用】

団体概要・人づくりメッセージ

貴団体名	社会教育委員の会議	所属・ご担当者名	生涯学習課 間中 美徳
ご連絡先	TEL 632-2677	FAX 632-2675	
Email	u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp		

1 団体概要

項目	記載欄	備考
PR文 (50字程度)	学びをとおして豊かな人間性と人と人との絆を育み、地域ぐるみにより、教育活動やまちづくりを支える社会を実現します。	
構成員・人数	学校教育関係者，社会教育関係者，家庭教育関係者，学識経験者 計20名	
代表・役員	委員長 廣瀬 隆人 副委員長 駒場 昭夫	代表者は氏名も記載。役員は役職名と人数のみでも可。
組織構成	別紙のとおり	図も可。代表・役員と併せた記載も可。
活動方針・活動計画		
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育の基本方針，文化行政推進の方向性等に関し調査研究を行うこと。 社会教育に関する諸計画を立案すること。 教育委員会の諮問に応じ、意見を述べること。 など 【近年における調査研究事項】 <ul style="list-style-type: none"> 平成12年度(意見書) 「生涯学習社会における今後の公民館のあり方について」 平成13年度(意見書) 「(仮称) 宮っ子育成の日について」 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度(意見書) 「家庭と地域の教育力向上に関する意見書」 ・平成22年度(答 申) 「宇都宮市における今後の「成人教育」のあり方について」 	
--	---	--

※記載することが難しい項目については、空白で結構です。

2 人づくりメッセージ

1文で、できる限り平易な表現で作成をお願いします。

<p>地域で学び，地域で育て，地域をつくる，地域ぐるみの学習・教育を推進します。</p>
--

うつのみや人づくり推進委員会
事務局（宇都宮市教育委員会教育企画課） 宛
FAX 028-639-7159
Email u4612@city.utsunomiya.tochigi.jp

提出締切：平成25年12月25日（水）

活動紹介出展確認

活動紹介出展

各団体において取り組んでいる人づくり活動の様子をDVDに納め紹介するもの。

【出展方法】

DVD映写 フォーラム会場内に設置するテレビでDVDを映写する。

※各団体で作成している新聞や広報紙等の展示を希望する場合は、内容を記載のうえ事務局までご連絡願います。

貴団体名	社会教育委員の会議	所属・ご担当者名	生涯学習課 間中 美徳
ご連絡先	TEL 632-2677	FAX 632-2675	
Email	u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp		

1 出展の有無

該当するものを○で囲んでください。

出展する

出展しない

以下は、出展する団体のみご記入下さい。

DVD映写について

DVDの内容及び映写時間等をご記入下さい。

--

その他

団体で作成している新聞等の展示を希望する場合は、内容等をご記入下さい。

--

■団体紹介パネルA2 (594×420)

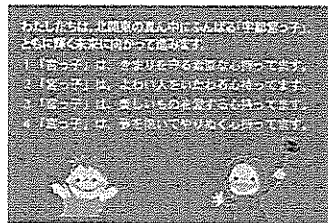
宇都宮市教育委員会



宇都宮市における人づくりの理念「宮っこ未来ビジョン」に基づき、家庭、学校、地域、企業、行政の連携による人づくりを進めています。

主な事業

- ・「宮っ子の誓い」活用推進事業
- ・小中一貫教育の推進と地域学校園の実施
- ・学力向上の推進
- ・特別支援教育の推進
- ・「宮っ子すくすくノーケータイプラン」の推進
- ・親力向上支援事業の推進
- ・宮っ子ステーション事業の推進
- ・地域スポーツクラブ推進事業



団体概要

○教育委員5名

委員長 藤原 宏史
職務代理者 大場 文恵
委員 松江 比佐子
委員 若度 哲久
教育長 水越 久夫

○教育機関

教育センター
上河内学校給食センター
生涯学習センター (18箇所)
図書館 (5箇所)
視聴覚ライブラリー など
小学校 (68校)
中学校 (25校)

○教育委員会事務局

教育長 — 教育次長
教育監
副参事 (スポーツ交流担当)

- 教育企画課
- 学校管理課
- 学校教育課
- 学校健康課
- 生涯学習課
- 文化課
- スポーツ振興課



宇都宮市教育委員会
委員長 藤原 宏史

【運営方針】
子どもや大人の「人間力」の向上を図るため、「宮っこ未来ビジョン」の基本理念「心豊かでたくましく生きる人づくり」を目指し、「人づくり日本一」に向けた仕組みの構築等を図ります。

第5回

うつのみや人づくりリフォーラム

宇都宮市教育委員会

「宮っ子の誓い」で、きまりを守る素直な心、よわい人をいたわる心、美しいものを愛する心、夢を抱いてやりぬく心をもつ「宇都宮っ子」をはくくみます。

宇都宮市体育協会

スポーツをとおして心身ともに調和のとれた人材を育成します。

宇都宮市子ども会連合会

子どもたちの健やかな成長のために、地域の大人たちはもっと子ども会活動を充実させていく努力をしなければなりません。

宇都宮市PTA連合会

心豊かでたくましく生きる子どもを育てるために、PTA活動で親力を高めます。

(社)清原工業団地総合管理協会

企業活動を通じて、地域住民とも積極的な交流ができる人材育成。

宇都宮市中学校長会

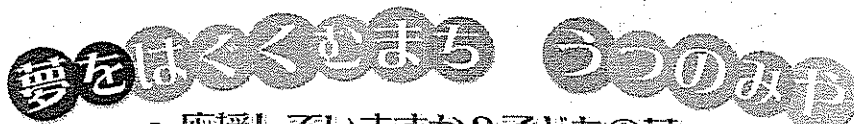
知識基盤社会である21世紀をたくましく生きる人づくりを目標とし、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」を育むことに努めます。

陽南中学校「おやじの会」

子ども達と親や先生ではない、友達でもない「ななめの関係」をつくり、楽しく交流を図ります。生涯にわたり子ども達に関心を持ち、子ども達とともに「夢と志」を持ち続けます。

宇都宮市民間保育園園長会

「こころもからだもおおきな〜れ」



私たちの人づくりメッセージ

(株)下野新聞社

大切な情報を伝え、郷土愛を育みます。

宇都宮市小学校長会

教職員の意欲を引き出し、力量を高め、活力ある学校づくりに努め、夢と希望をもち、心豊かにたくましく生きる「宮っ子」を育てます。

栃木県高校長会宇都宮支部

社会の様々な分野で貢献できる人材の育成を図ります。

(株)エフエム栃木

必要な情報を広く発信し、たくさんの笑顔を作ります。

国立大学法人宇都宮大学

地域社会に積極的に貢献する、実践力と高度な専門性さらに強いキャリア意識を備えた人間を育成します。

宇都宮商工会議所

企業活力の強化や地域経済の活性化を推進するため、その基盤となる人材の育成を支援します。

宇都宮市青少年育成市民会議

第3日曜日は「家庭の日」です。青少年を心身ともに健やかに育てるためには、明るく円満な家庭が大切です。親子のふれあいや地域とのつながりを通して、青少年の健やかな成長を育みましょう。

宇都宮地区幼稚園連合会

Children First!
子どもを社会の“まんなか”に。

宇都宮市地域婦人会連絡協議会

たよりになる生活リズム・食生活・市婦連の知恵

宇都宮市

地域・社会全体で「子育て・子育て」に取り組み、うつのみやの“幸せ力”アップを図ります。

「社会の要請」の高まりへの今後の対応について

◎ 趣旨

平成25年3月に策定した第2次宇都宮市地域教育推進計画に基づき、「社会の要請」の高まりへの対応については「宇都宮市生涯学習推進本部」及び「社会教育委員の会議」において協議・検討を行うとしており、今後の「宇都宮市生涯学習推進本部」及び「社会教育委員の会議」の連携の仕組みについて協議するもの

1 「社会の要請」に即応した学習機会の必要性

- 社会情勢が激しく変化中、地域社会が抱える課題も多様化・複雑化してきており、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」が進行してきていることから、学校教育はもとより、社会教育の重要性が高まってきている。
- 中でも、市民が心豊かに安心安全な市民生活を送るためには、激しく変化する時代の潮流の中で、必要性の高まっているテーマについて知識等を習得していくことが必要であり、さらに、社会教育行政としては、庁内関係部局との連携・協働により「社会の要請」に即応した学習機会を提供していく必要がある。
- また、現代の「社会の要請」については、毎年変化していくことが予想されることから、「社会教育委員の会議」と「宇都宮市生涯学習推進本部」が定期的にやり取りのできる仕組みを構築し、「社会教育委員の会議」からの意見を効果的に本市の施策事業に結びつけることが必要である。

2 具体的方策（案）

- ① 【5月頃】毎年、第1回目の「社会教育委員の会議」において、「社会の要請」として必要性の高まっている学習テーマについて意見交換を行う。
- ② 【9月中旬】意見交換の結果を集約し、第2回目の「社会教育委員の会議」において、本市の生涯学習振興行政を所管する「宇都宮市生涯学習推進本部」への提言としてまとめる。
- ③ 【10月初旬】「社会教育委員の会議」からの提言の内容について、「宇都宮市生涯学習推進本部」において翌年度、力点を置いて取り組むべき学習テーマとして協議・検討を行う。

3 今後のスケジュール

- 平成25年12月 社会教育委員の会議において協議
- 平成26年 2月 宇都宮市生涯学習推進本部において報告
- 5月 社会教育委員の会議において「社会の要請」について意見交換
- 9月 社会教育委員の会議において提言作成
- 10月 宇都宮市生涯学習推進本部において協議

◎ 対応の流れ

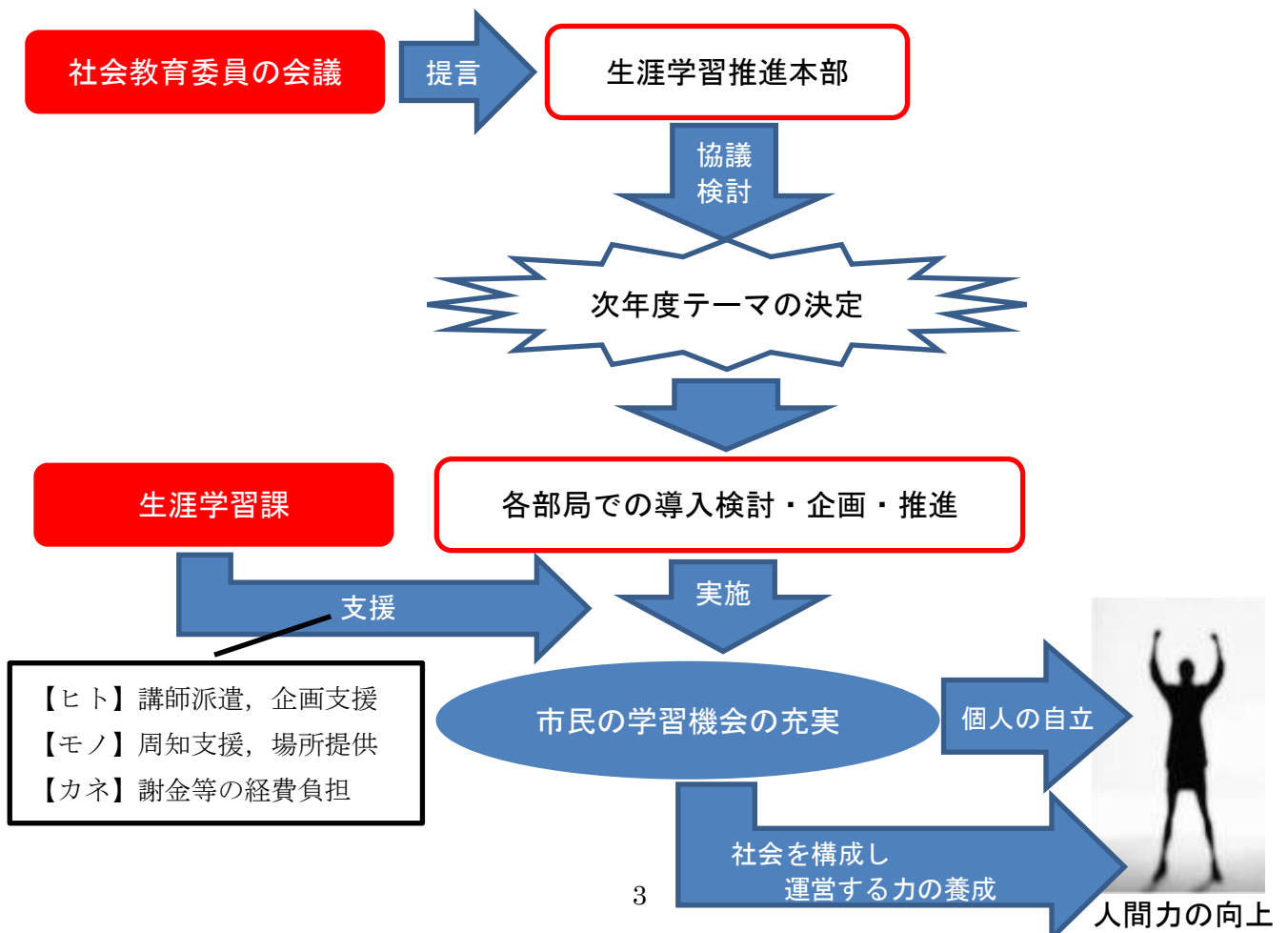
年月	社会教育委員の会議	宇都宮市生涯学習推進本部
平成26年 5月	第1回 社会教育委員の会議 ・ 「社会の要請」として必要性の高まっている学習テーマについて意見交換	
6～8月	↓	「市民に学習を提供する事業」に関する調査 ・ 庁内各課が提供する生涯学習振興事業について調査を行う。
9月中旬	第2回 社会教育委員の会議 ・ 第1回目の意見交換及び「市民に学習を提供する事業」に関する調査の結果を踏まえ、次年度、力点を置いて実施すべき施策事業について、宇都宮市生涯学習推進本部に対する提言を作成	
10月初旬	↘	第1回 宇都宮市生涯学習推進本部会議 ・ 社会教育委員の会議からの提言を踏まえ、次年度事業への反映に向けて協議・検討を行う。
12月	第3回 社会教育委員の会議 ・ 宇都宮市生涯学習推進本部における検討の結果を報告	
平成27年 2月	↓	
5月	第1回 社会教育委員の会議 ・ 前年度の協議・検討結果、社会情勢の変化などを踏まえ、「社会の要請」として必要性の高まっている学習テーマについて意見交換	

◎ 生涯学習推進本部

生涯学習の継続的な発展に向けて、生涯学習推進に関わる施策事業について全庁的な連携・調整を図り、生涯学習を効果的・効率的に推進するため、「宇都宮市生涯学習推進本部」を設置している。

- 本部会議
 - ・構成 本部長：教育次長
副本部長：市民まちづくり部次長
本部員：関係部次長等
 - ・所掌事務 生涯学習推進計画の策定，その他生涯学習の推進
- 幹事会議
 - ・構成 委員長：生涯学習課長，副委員長：みんなでまちづくり課長
委員：関係課長等
 - ・所掌事務 生涯学習推進計画の企画立案，生涯学習事業の推進，庁内の連絡調整
- 作業班
 - ・構成 班長：生涯学習課長補佐，副班長：班長が指名
班員：幹事会議委員が指名
 - ・所掌事務 幹事会議の補助

◎ 「社会教育委員の会議」と「生涯学習推進本部」の連携イメージ



第44回

関東甲信越静社会教育研究大会

栃木大会 資料(抜粋)

第44回 関東甲信越静 社会教育研究大会 栃木大会 栃木県社会教育委員研修会

学びを通じて、地域住民が「絆」を強め、自立した地域社会を創る社会教育の在り方
～自ら考え、自ら動き、地域社会をデザインする社会教育委員の役割～



期日

平成25年11月14^木日・15^金日

会場

栃木県日光市(日光地区)

大会次第

1. 開会行事 13:00～13:30

- (1)開会の言葉 大河原達男 大会実行副委員長
- (2)主催者挨拶 石岡 佐平 大会実行委員長
上條 秀元 (一社)全国社会教育委員連合副会長
- (3)来賓祝辞 福田 富一 栃木県知事
古澤 利通 栃木県教育委員会教育長
- (4)歓迎の言葉 斎藤 文夫 日光市長
- (5)来賓紹介

2. 記念講演 13:50～15:10

- 演 題 「二宮尊徳から学ぶ 人づくり 地域づくり」
講 師 二宮 康裕氏 (二宮総本家当主)

3. パネルディスカッション 15:40～17:10

テーマ 「自ら考え、自ら動き、地域社会をデザインする社会教育委員の役割
～住んでみたい、住み続けたい、魅力ある地域を目指して～」

パネリスト

- 山本 裕一氏 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター長
- 池 節子氏 壬生町教育委員会教育委員長
- 斎藤 陽子氏 鹿沼市社会教育委員委員長
- 間中 美徳氏 宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課主任主事 (社会教育主事)

コーディネーター

- 廣瀬 隆人氏 宇都宮大学地域連携教育研究センター教授

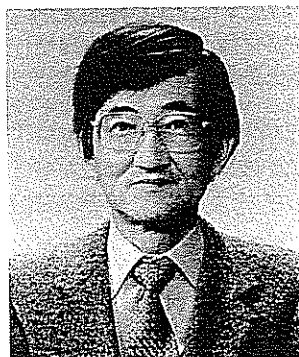
4. 閉会行事 17:10～17:30

- (1)次期開催県挨拶 鈴木 眞理 神奈川県社会教育委員連絡協議会長
- (2)閉会の言葉 根岸 久江 大会実行副委員長

記念講演

二宮尊徳から学ぶ 人づくり 地域づくり

講師 二宮 康裕 氏(二宮総本家当主)



講師プロフィール

二宮 康裕 (二宮総本家当主)

- 1947年、神奈川県小田原市生まれ。二宮総本家当主。
- 東北大学大学院博士課程前期(日本思想史)修了、同後期中退。
- 公立学校教員を経て、金次郎研究に専念。日本思想史学会会員。

著書に『二宮金次郎の人生と思想』(麗澤大学出版会)、『二宮金次郎正伝』(モラロジー研究所)、近日刊行として『日本人のこころの言葉 二宮金次郎』(創元社)がある。

日時 11月14日(木)
13:50~15:10(80分)

全体会 会場

日光市日光総合会館

二宮尊徳から学ぶ 人づくり 地域づくり

(1) 「語られる金次郎」から「語る金次郎」への転換

近代以降、二宮金次郎は「国定修身教科書」・各学校に設置された「金次郎像」・「金次郎伝」によって広く国民に知られてきました。いずれも出典は門弟達の著作で、親孝行で勤勉な模範少年としてのイメージが定着してきました。筆者はこれらの像を「語られる金次郎」と名付けました。

金次郎自身は、日記・書簡・仕法書・著作と歴大な史料を書き残しています。日記は50年分、書簡は3600通余もあり、その他、各地に仕法書が残され、著作も未だ単行本としては公刊されていません。これらの史料を「語る金次郎」と呼び、原典に依拠した本格的解明を求めています。

金次郎は死期を悟った安政2年大晦日の日記に「予が書簡を見よ、予が日記を見よ」と記していることから、己亡き後の指針として「書簡・日記」を位置づけていたことが明らかです。したがって、金次郎研究は金次郎自身が記した文献からなされなければならないことは明白です。そこで、本講演でも金次郎が記した文献を中心にお話しさせていただきます。

(2) 自己の捨象と人為人生

金次郎による仕法が初めからうまくいったわけではありませんでした。農民の面従腹背に困り果て、遂に成田山参籠に追い込まれます。そこで一円思想に到達しました。自己も、他人も一円の内に見ることが可能となったわけです。後、著「大円鏡」の中で「我なければ、敵なし、我あれば、敵あり」と記します。自己のありようが敵をつくっていたことに気づいたのです。そこで、金次郎は我欲を捨て、人のために生きる決意をします。「己のための仕法」から「農民のための仕法」へと意識変革をなし遂げたのです。つまり、自己を変えることによって、相手を変えることに成功しました。人を変えたければ、自らが変わらねばならないということです。以後の金次郎が徹底して「人ため」に生きたことは言を要しないことです。

故下程勇吉先生(京都大学・麗澤大学教授)は、金次郎の人生を「人為人生」と指摘されています。

(3) 一円融合界の実現

金次郎の変身は農民を大きく変えました。「人ため」が「村ため」に発展していきました。富める者は財を提供し、貧しき者は労力を提供し、「貧富相和す村づくり」が可能となりました。同様に老若男女も協力の姿勢を示し、一つの村が一大家族であるかのような協調体制ができあがりました。金次郎はこのような世界を「一円融合」と呼びました。

はじめのうちは、金次郎→農民という構図で指導が行われていました。それが金次郎→仕法理解者→農民という構図に変化していきました。金次郎の変身が農民を覚醒させ、仕法を共に成し遂げようとする協力者に変容させたのです。仕法が進むにつれ、仕法理解者は増加し、各村落で喜々として仕法に参加するようになりました。以後、常に金次郎が上に立つ者の自覚を促したことはいうまでもありません。

パネルディスカッション

テーマ

自ら考え、自ら動き、地域社会を デザインする社会教育委員の役割 ～住んでみたい、住み続けたい、魅力ある地域を目指して～

パネリスト

山本 裕一氏 (国立教育政策研究所社会教育実践研究センター長)



昭和55年 国立社会教育研修所採用
昭和58年 文部省社会教育局社会教育課
平成10年 文部省生涯学習局生涯学習振興課ボランティア活動推進専門官
平成11年 〃 社会教育課補佐
平成14年 東海市教育委員会副教育長
平成16年 文部科学省生涯学習政策局社会教育官
平成18年 〃 男女共同参画学習課家庭教育支援室長
平成19年 独立行政法人国立青少年教育振興機構 教育事業部長
平成22年 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家所長
平成24年 現職

池 節子氏 (壬生町教育委員会教育委員長)



平成 6年 壬生町教育委員会教育委員
平成15年 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会副会長
平成16年 栃木県社会教育委員
栃木県社会教育委員協議会副会長
壬生町教育委員会教育委員長
平成19年 栃木県社会教育委員協議会長
栃木県社会教育振興協議会長
栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会長
平成22年 栃木県社会教育委員会協議長

平成23年、壬生町教育委員会教育委員長として、中学生が地域住民とともに活動する、または、公民館等の事業に自ら考え企画して地域の大人を巻き込む活動を展開するための方策等について、壬生町社会教育委員の会議に諮問する。

パネリスト

齋藤 陽子氏 (鹿沼市社会教育委員委員長)



- 平成11年 鹿沼市社会教育指導員
- 平成15年 鹿沼市社会教育委員
放課後子ども教室「学びステーション鹿沼」代表
- 平成21年 鹿沼市社会教育委員委員長
栃木県社会教育委員協議会評議員
- 平成22年 鹿沼市民生委員・児童委員
- 平成23年 栃木県社会教育委員協議会監事
鹿沼市家庭教育オピニオンリーダーせせらぎ会代表

平成15年、鹿沼市社会教育委員に就任する。平成21年から社会教育委員長として、鹿沼市の社会教育の振興に尽力する。平成22年度には、鹿沼市教育ビジョンの策定に当たって、社会教育委員の有志で「家庭教育の在り方検討委員会」を立ち上げ、意見交換等を主体的に行い、教育委員会に「家庭教育の在り方に関する提言書」を提出する。

間中 美徳氏 (宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課主任主事(社会教育主事))



- 平成15年 宇都宮大学教育学部卒業
宇都宮市に一般行政職として採用
- 平成15年度～平成17年度 農務部農政課に勤務(現在は経済部)
- 平成18年度～平成20年度 保健福祉部保健所保健予防課に勤務
- 平成21年度～ 教育委員会事務局生涯学習課に勤務～現在に至る。
- 平成22年 社会教育委員の会議担当として、「宇都宮市における今後の『成人教育』のあり方について(答申)」の作成に関わる。
- 平成22年 宇都宮大学にて社会教育主事講習受講
- 平成25年 「第2次宇都宮市地域教育推進計画」の策定に携わる。
- 平成25年度 生涯学習課主任主事(社会教育主事)として発令を受ける。

市民生活の基盤である地域に軸足を置いた、地域教育を推進し、宇都宮市の人づくり、絆づくり、地域づくりを進める。

コーディネーター

廣瀬 隆人氏 (宇都宮大学地域連携教育研究センター教授)



- 専門分野 : 教育学、社会教育
- 主な授業科目 : 教育学部: 社会教育演習、生涯学習社会論
大学院 : 地域教材開発特論
- 授業内容 : 社会教育主事資格取得のために開設されている科目を担当していることから、社会教育主事として必要な学習課題の把握と企画立案能力、コミュニケーション能力、組織化援助の能力、調整者としての能力、幅広い視野と探求心を育むことを方針としている。
- 研究分野 : 社会教育学研究のうち、特に栃木県の学校と地域の連携を社会教育の視点から実践的な研究を行うとともに、成人教育としての意味を問うことを試みています。
- 著書・論文 : 「学校と地域がつながるために」単著
宇都宮大学生涯学習教育研究センター 2007年 P144
「まちづくりスタートブック」
栃木県 2009年 共著pp.1-58
「事業企画・運営スタートブック」単著
栃木県・とちぎ市民協働研究会 2010年 p64
- 所属学会 : 日本社会教育学会、日本学習社会学会、日本生涯教育学会
- 学外活動 : 栃木県教育委員(2007年～) 宇都宮市社会教育委員(2006年～)

第1分科会

地域の絆を育むネットワークづくり

テーマ

地域主体の世代間交流とそこから発生する『学び返し』

事例提供者

東京都調布市社会教育委員の会議 議長

岡田 登氏

東京都調布市教育委員会教育部社会教育課 社会教育係長

伊東 良之氏

助言者

宇都宮大学教育学部 教授

陣内 雄次氏

コーディネーター

栃木県教育委員会事務局上都賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹 伊藤 洋二氏

第1分科会 会場

日光市日光総合会館

テーマ

地域主体の世代間交流とそこから発生する『学び返し』

I はじめに

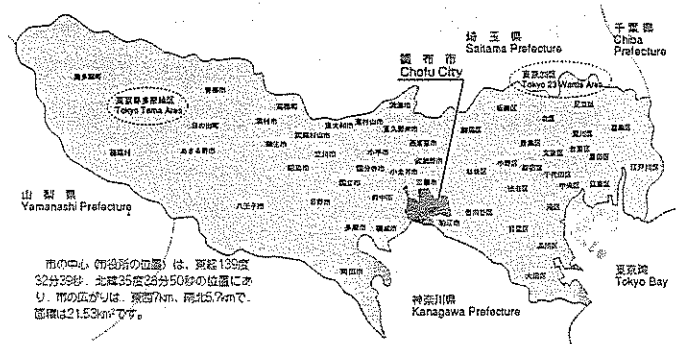
1. 調布市の位置と概要

調布市は、東京都のほぼ中央に位置し、新宿副都心へ15kmの距離にあります。

市の面積は21.53km²で、市の中央部には、東西に走る京王線と、国道20号線(甲州街道)、中央自動車道があります。

市の人口は平成25年7月現在、約22万4千人と、市制施行時(昭和30年)の約5倍となりました。(人口区分等はスライド参照)

また、北に武蔵野の面影を残す深大寺地域、里山と田園風景を残す佐須地域、南にゆるやかに流れる多摩川など、都心近郊ながら水と緑の豊かな自然環境に恵まれているまちでもあります。



2. 調布市の社会教育が目指す将来像～平成24年度策定の調布市社会教育計画より～

『すべての市民の学びが 笑顔あふれる 社会を築く』

すべての市民がいきいきと学び、学びを通じて人の輪、地域の輪が広がるようなまちを目指して、社会教育の環境を整備していきます。地域の課題を見つけ、ともに学び育ち合う社会教育を目標に、市民と行政が将来像を共有し、ともに実現に向けて取り組んでいきます。

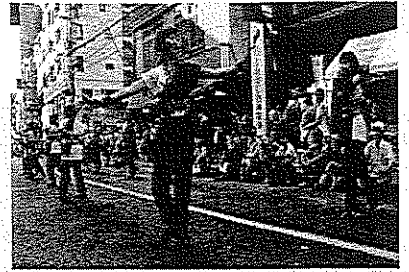
II 実践内容(今回のテーマ)

1. 調布市における世代間交流を可能とする地域のおまつり・イベントについて

- (1) 伝統的な神社、仏閣に関わる祭礼
- (2) 地域の特性を活かした商店街の催し、イベント
- (3) 高齢者・障害者施設等の拡充による、慰問
- (4) 各種ボランティア団体、生涯学習グループの活動発表や、他のグループとの交流会
- (5) 社会福祉協議会による老人会、ボランティア団体などの合同のおまつり
- (6) 学校開放を利用した学校区全体のおまつり
- (7) 小学生を中心とした子供博覧会などのイベント
- (8) 社会福祉協議会が先導する福祉まつり
- (9) 市民活動支援センターなどが支援するおまつり
- (10) 公民館を中心とした利用者団体・地域のおまつり
- (11) 消費者団体による啓蒙のイベント



- (12) 市民が中心となり市のイベントとして育てるおまつり(調布よさこい等)
- (13) 調布市としてのイベント(成人式・調布っ子夢会議等)
- (14) その他、調布市花火大会、神代植物公園のイベント、味の素スタジアムのイベント、野川の桜のライトアップ、調布市民文化祭、調布市体育協会の各種競技会等(詳細はスライド参照)



以上のように、調布市には数多くの多岐にわたるおまつりやイベントがあり、20人程度から数万人規模までの住民が集まり、その楽しさを共有しています。

住民の増加に伴って、市民が共に集う機会は少なくなってきましたが、地域のおまつりに参加することで近隣との付き合いを持つことができ、それが楽しく、心豊かな生活に繋がっているものと考えます。新しく住民となった人や、外国籍市民など、「誰にでも優しい地域づくり」のためにはこのような参加しやすいおまつりやイベントは欠かすことができず、また様々な年齢層が参加することは人の絆を強くするに違いありません。

2. 調布市のおまつり・イベントの発展

<初期>福祉・介護関係のグループ主体で、福祉施設や老人クラブに関連したものが主

<平成>社会福祉協議会を中心に、新たに環境・外国人対策・災害・まちづくり・地域活性化などのグループが加わり、さらに退職者をはじめとした男性も加わった

現在調布市には数多くのボランティアグループがあり、市の様々な施設で相互の連携を図りながら、活動を続けています。男性が増えたことで、活動を活性化できるようになりました。従って地域の繋がりが強くなり、おまつり・イベントによる世代間交流を通して次代の人々へ様々な学びを伝承する「学び返し」の効果が高まりました。

Ⅲ 社会教育委員の役割

1. 調布市社会教育委員の会議について

調布市社会教育委員の会議は委員10名で構成され、2年を任期とし奇数月に定例会、必要に応じて偶数月にも臨時会を設けています。

また、東京都市町村社会教育委員連絡協議会では、近隣の武蔵野市・三鷹市・府中市・小金井市・狛江市と調布市の6市で構成される第5ブロックに属しています。第5ブロックでは、社会教育委員の1つの合言葉として府中市が提案した『学び返し』という言葉が日常的に使われています。(東京都市社連協の詳細はスライド参照)

第5ブロックでは昨年度、この『学び返し』をテーマとした研修会を実施し、各市による実践報告を行いました。そして今年度の研修会では調布市が幹事市となり、「市民参加の演劇で社会教育を考える」をテーマに、市民からキャストを募って行った演劇の公演を通して討議を行いました。これも調布市における社会教育の実践例です。

2. 調布市社会教育計画策定について

調布市では平成17年に、社会教育委員と多くの公募委員が2年をかけて「調布市社会教育計画」を策定しました。社会教育計画を策定している自治体は少数です。

この計画の計画期間が平成24年度で終了することに伴い、平成25年度を初年度とする新しい「調布市社会教育計画」を、昨年度策定しました。社会教育フォーラムの開催や、アンケート調査、ヒアリング調査、パブリック・コメント等の実施により市民や団体の意見を取り入れながら策定しました。この間非常に多くの市民から様々な意見をいただいたことに感謝しています。

また、策定後には市民団体から出前講座の要請があり、多くの市民に直接計画の内容を説明することが出来ました。市民からは「非常に理解しやすく、読みやすい良い計画」との評価や、「この計画をもっと広く市民に周知すべき」といった意見をいただきました。

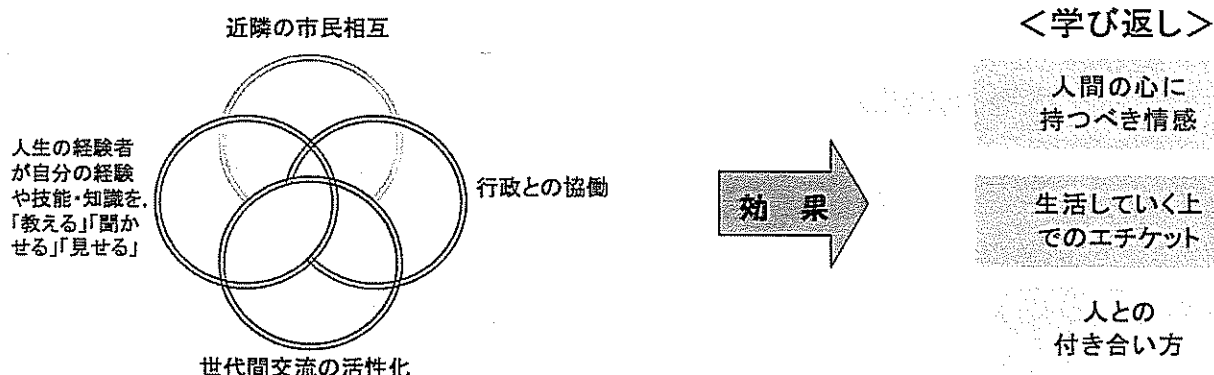
3. 社会教育と生涯学習について

個人の自発的意思に基づく生涯学習社会の構築を目指す上で、社会教育が中心的な役割を担う事が求められています。従って調布市の社会教育委員は、社会教育法における社会教育委員の法的立場と社会教育の意義を理解し、多種多様な分野における市民の自主的な活動が活発であるという調布市の強みを活かし、市民と行政が多様な分野で協働する際のつなぎ役としての役割を担っています。

IV 成果と課題

1. 成果

(1) 調布市のおまつり・イベントにみる「学び返し」



(2) 調布市社会教育計画におけるおまつりの位置づけ

昨年度策定した調布市社会教育計画において、「学習成果を発表する場づくり」という施策のなかに、公民館事業として「地域文化祭」を掲げ、地域の学び合いの輪を広げるとともに、子どもたちが夢を語る機会や若者の運営による成人式の開催などを位置づけ、地域への「学び返し」の実現を図っています。

2. 課題

スマートフォンやiPadなどの急速な普及により、IT端末との付き合いだけになり、家族や社会との縁が薄れてきたことで、既存の教育やイベント・おまつりを通じた人間の絆・成長・社会常識の学習が行えない時代になってきています。

このような急激な社会の変化へ社会教育としてどのように対応出来るか、社会教育委員の役割が改めて問われているのではないのでしょうか。

第2分科会

青少年の健やかな成長を育む環境づくり

テーマ

中学生による地域活動の推進

事例提供者

栃木県壬生町教育委員会 教育委員長

池 節子氏

栃木県壬生町社会教育委員の会議 議長

田中鍾八郎氏

栃木県壬生町教育委員会事務局生涯学習課 副主幹兼社会教育主事

鈴木 正俊氏

助言者

作新学院大学女子短期大学部 教授

青木 章彦氏

コーディネーター

栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹

秋山 貴子氏

第2分科会 会場

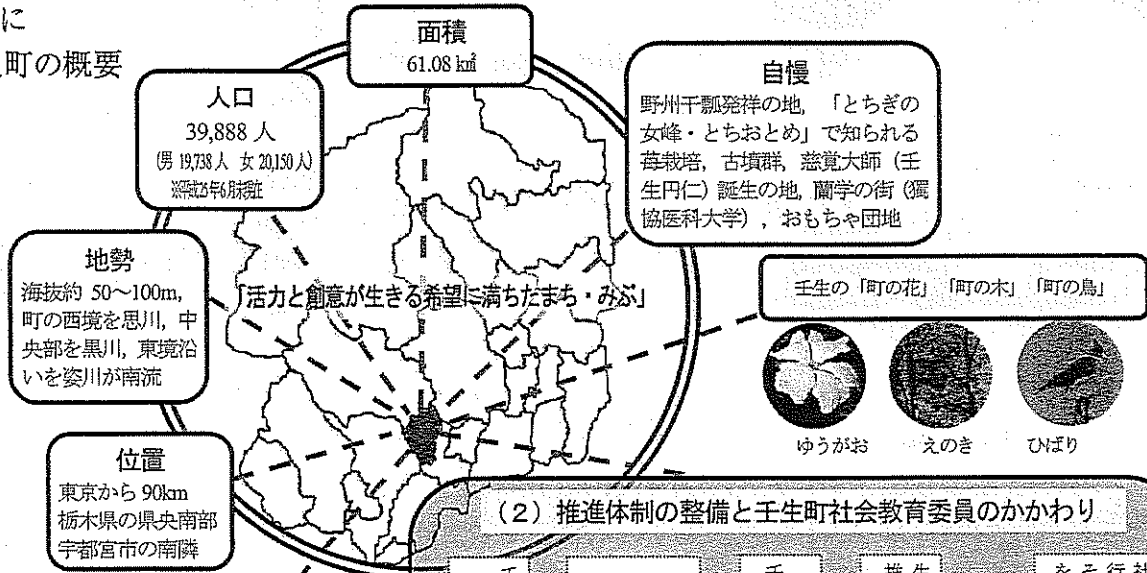
日光千姫物語

テーマ

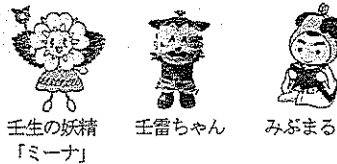
中学生による地域活動の推進

I はじめに

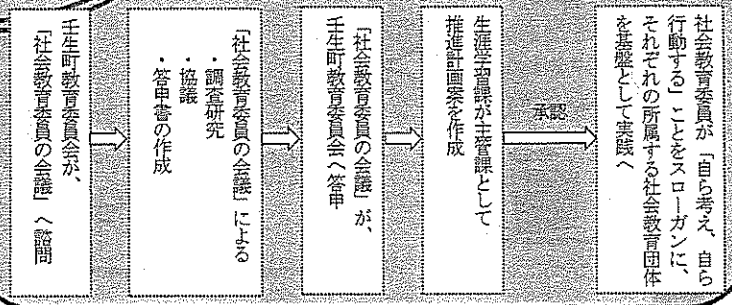
(1) 壬生町の概要



壬生町のキャラクター



(2) 推進体制の整備と壬生町社会教育委員のかかわり



II 実践内容

(1) ねらい



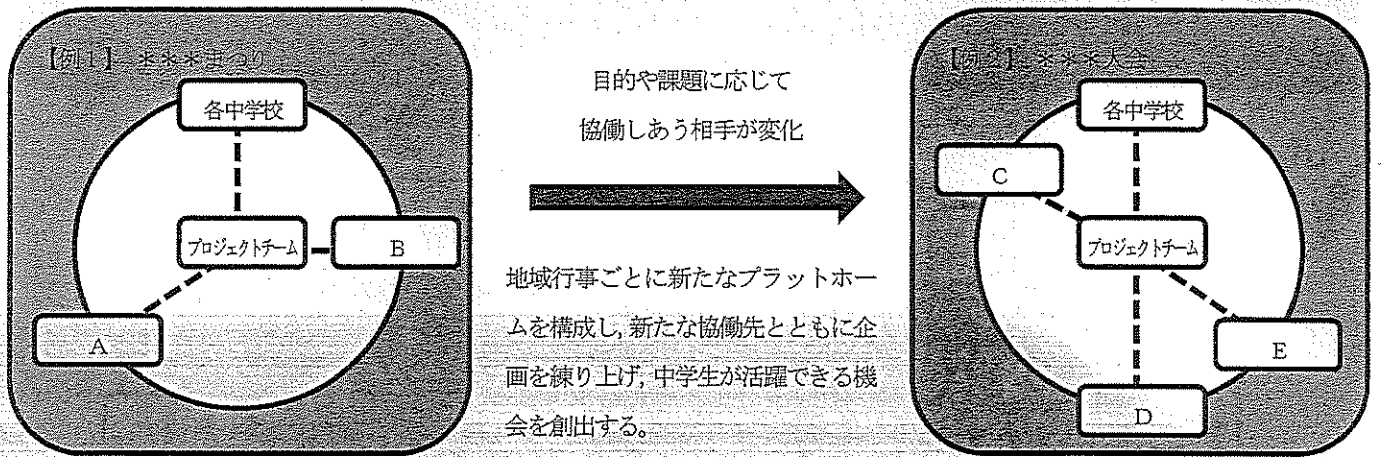
(2) 展開

① プロジェクトチーム運営

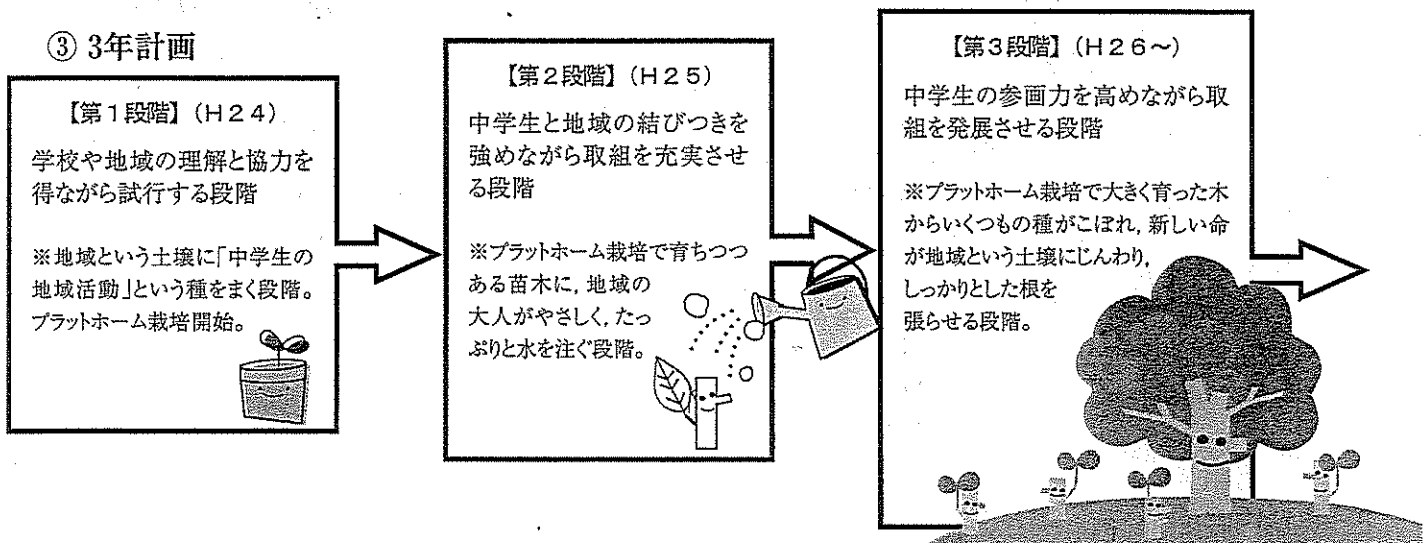
- ・社会教育係職員, 中央公民館係職員, 社会教育指導員等で構成する。
- ・関係組織, 地域団体等のコーディネートを担当し, 推進上のハブ機能(統合・調整)を担う。

② プラットホーム構想

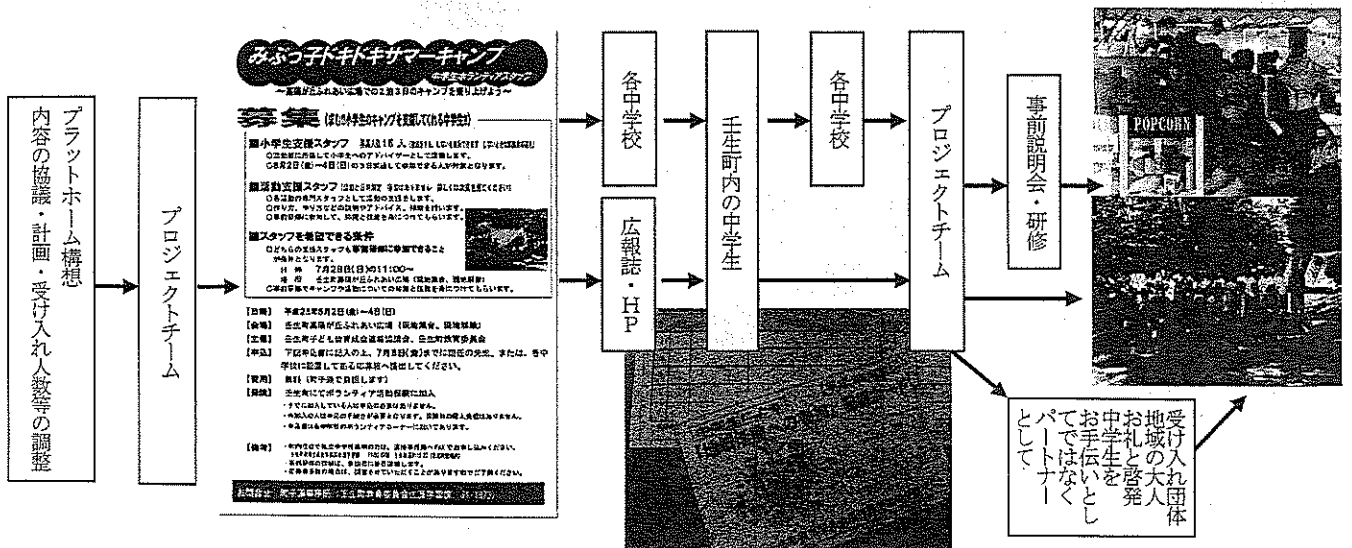
- ・目的を共有する団体どうしが手をつないで(時限的關係), ノウハウや情熱を分かち合いながら, 目的達成に向けて一緒に汗をかいていこう。



③ 3年計画



(3) 中学生による地域活動までの流れ



(4) 実際の実組(人数)

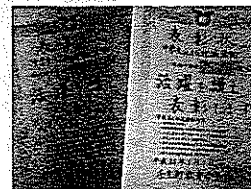
① 平成24年度

第2回チャリティー交流会 (63), NHK 公開収録「吹奏楽のひびき」(55)
至宝八坂祭 (16), いずみ町夏祭り (4), 平成24年度サマーキャンプ (35)
「ポケット」夏祭り (2), 平成24年度壬生ふるさとまつり模擬店 (7)
平成24年度壬生ふるさとまつり早朝清掃 (12), 遊学塾まつり (3)
第26回壬生町健康ふくしまつり (7), 平成24年度ゆうがおマラソン大会 (36)
第64回壬生町成人式 (11), 第24回カルタとり大会 (7)



② 平成25年度(7月中旬現在)

第3回チャリティー交流会 (125)
いずみ町夏祭り (2)
平成25年度サマーキャンプ (36)
「ポケット」夏祭り (15)
平成25年度壬生ふるさとまつり模擬店 (7), 踊り手 (1)
平成25年度壬生ふるさとまつり早朝清掃 (20)



地域活動に励んだ中学生に表彰状

III 社会教育委員の役割

壬生町社会教育委員の会議は、「自ら考え、自ら行動する社会教育委員」をスローガンとしています。会議の中で意見を述べることにとどまらず、地域社会の中で一人一人の委員が社会教育の充実に向けて、“できることを” “できる範囲において” 積極的に行動しています。

答申に向けた協議においては、「ワールドカフェ」「ブレインライティング」などの方法で、多様なアイデア等を産出しました。事務局は各委員の意見の統合・調整役を務め、「見える化」によって互いの意見を共有できるようにしました。また、現状把握と地域住民のニーズの調査を行うことも重要な役割であるとして、調査結果との整合性を図りながら提言に対する具体的で実効性のある方策の検討も行ってきました。

また、社会教育委員は中学生が輝く壬生町の実現に向けて、自らが所属する社会教育団体等を基盤として、中学生に地域住民とともに活躍する機会を提供する役割を担っています。

IV 成果と課題

(1) 成果

中学生の「笑顔」と地域の大人の「ありがとう」という言葉が互いを結び、あたたかな交流が生まれました。その中で中学生は自己有用感や自己肯定感を育てていることが、活動のふりかえりから見取ることができます。また、中学生が地域活動に参加することで、中学生を核とした地域の大人のつながりが生まれつつあります。「元気で一生懸命な中学生」と「地域に住むいい大人」との出会いは、近い将来パートナーとして手を取り合いながらまちづくりを進めるためのひとつの場となることが期待されます。

(2) 今後の課題

本事業は、中学生をターゲットとしつつも、実は中学生にかかわる地域の大人の「人間力」が試されている取組といえます。壬生町の未来を担う中学生とどうかかわり、励まし、勇気づけていくかという大人のかかわり力の向上が、今後試されている課題といえます。大人のかかわり力の向上は、より日常生活に密着した場所や機会での中学生による地域活動を促し、中学生と地域住民が一体となったまちづくりを推進するために大切なことであると考えられます。

また、中学校を卒業した青少年が、壬生町というふるさとにソフトランディングできるよう、「壬生町で育ってよかった」という思いを抱いて誇り高さ大人へと成長していけるよう、社会教育が担う具体的な役割について検討していくことも今後の重要な課題の一つと考えています。

第3分科会

住民の社会参画を促進 する学習機会の充実

テーマ

天伯峡ホタル祭りに地域再生の 可能性を探る

事例提供者

長野県高森町社会教育委員の会 議長

下沢 貢氏

長野県高森町教育委員会事務局 社会教育指導員

宮島 達朗氏

助言者

宇都宮大学教育学部附属教育実践総合センター 客員教授

田中 重夫氏

コーディネーター

栃木県教育委員会事務局芳賀教育事務所ふれあい学習課 副主幹

水沼 誠氏

第3分科会 会場

日光東照宮客殿

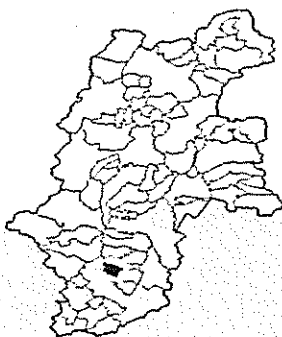
テーマ

天伯峡ホテル祭りに地域再生の可能性を探る

I はじめに

1. 高森町の概要

中央アルプスと南アルプスに囲まれ、天竜川がその間を流れる信州・伊那谷。高森町はこの伊那谷の南部、天竜川の西岸に広がる段丘の町です。人口13,549人(H25.9.30現在)。



農業が中心で、特に山付けの標高の高い場所ではりんご、梨などの果樹が、天竜川に近い場所では特産の市田柿が栽培されています。秋には干し柿「市田柿」として全国に出荷されます。

町のキャッチコピーは、「柿とカヌーと祭りの町」。2003年(平成15年)「高森町町民参加条例」を施行しました。自治組織における自らの役割と責務を自覚し、町民一丸となってまちづくりに努めています。

2. 社会教育委員会議の状況 「高森町社会教育委員の会」

(1) 社会教育委員の構成 男性3名 女性3名 の6名体制 会議回数年8回

(2) 教育委員会からの諮問・答申

平成19年11月 諮問 「生活リズム改善運動の推進について」

20年 5月 答申 「諸団体との連携と具体的な推進のあり方」

「ノーテレビDAY」

・読書の日(家庭20分読書)

・家庭の日(第3日曜日)の定着

回答 第5次町振興計画の施策成果目標に上げ推進する

平成24年 4月 諮問 「暮らしを考える学習活動の取り組み」

(3) 高森町の社会教育の状況把握(調査・研究)

「なぜこのような状況になっているのか」「良さは何か」「課題は何か」

「解決方法は」「さらに発展させるには」等 まちづくりへつなげます。

II 実践内容

1. なぜホテル祭りが ～天伯峡ホテル祭りの「熱気」・「活気」・「元気」の源を探る



天伯峡ホテル祭り実行委員会

高森町山吹区には、源氏ホテルが生息する天伯峡と呼ばれる地があります。天伯峡ホテル祭りは「天伯峡ホテル祭り実行委員会」を中心に、平成2年より開催されています。実行委員会の構成は、山吹区を核として、ホテル管理委員会をはじめ、各種団体、関係機関、町、学校、教育委員会の関係者を含め、総勢150人余に及びます。

2. 【探る視点1】地域素材である天伯峡ホタルの特性

『もう一度、ホタルの舞う地域を取り戻したい』

天伯峡は昔から源氏ホタルが飛び交っていましたが、年々その数が減少してきたことから昭和63年よりホタルの保護活動が始まりました。現在は、その後、地区の有志によって結成された「天伯峡ホタル管理委員会」を中心に管理活動が行われています。

ホタルは、地区の住民や自然との微妙な(絶妙な)バランスのもとで生きているので、天伯峡のホタルは天伯峡でしか育ちません。

3. 【探る視点2】学校:ホタルの教材化とつきたい力

地域の学校である高森北小学校では、4年生が、ホタル管理委員会の指導を受けながらホタルの飼育活動を行っています。また、4年生から6年生までが、ホタル祭りに演奏する「ホタル太鼓」の練習に取り組んでいます。



(1) 源氏ホタル復活プロジェクト

子どもたちは、ホタルの幼虫を『ピカリ』と名付け、水槽を教室に持ち込み、以来、飼育活動に取り組みました。

農家に湧水を汲みにいき、水槽の水替えをします。水を運んでいるうちに『ピカリ』がだんだん可愛く思えるようになりました。このように育てた『ピカリ』を、3月に天伯峡のホタル水路に放流します。

(2) ホタル太鼓挑戦プロジェクト

ホタル太鼓の打ち手は、4年生以上の中からオーディションで選ばれます。子どもにとっても保護者にとっても大きな関心事で、審査結果には、子どもも家庭も一喜一憂しますが、高森北小学校では、これこそが大事な学習ととらえています。学校目標は、「ふんばる・おもいやる・ひびきあう」。その達成の過程として、悔しさを味わうことも大事な勉強であり、「あきらめず、挑戦し続けること」、「ねばり強く、相手の気持ちを受け止め、頑張っていくこと」が大切だと考えています。そして、そんな学校の思いを、学校便りで家庭・地域に発信し、理解と支援を得ています。



4. 【探る視点3】地域:ホタルを核とした人と人との関わりの深化・発展

(1) 『私たちもまけない』～平成18年「子安太鼓の会」発足 山吹区駒場地区

- ・親子50人参加。平成20年「オリジナル曲を作ろう」
- ・曲作りは地域学習から。地域巡りでイメージを広げる。地域の今を見る、昔を聞く。先輩から後輩へ、あるいは母から子へ。会は「一つの大きな家族」のように。

(2) 『龍神の舞』 山吹区龍口地区

- ・子ども竜の勇壮な舞い、大人と肩を並べてのお囃子、地区の「教育力」の確かさ。

(3) 高森北小学校PTA

- ・町や地域の行事をPTA行事として盛り込む

5. 【探る視点4】行政の関わりと相互連携について

町と教育委員会は、資金面や事務面で支援します。事務内容は実行委員会・正副部長会の開催通知、資料作成、交通規制のための警察協議、祭り参加者への案内状の送付、関係団体との調整等。その他、祭り当日の運営補助を実施。

Ⅲ 社会教育委員の役割

1. 社会教育委員の役割とは

(1) 役割

- ・祭りの様々な効用、特性、事例等、祭りの意義を話す。
- ・ホテル祭り実行委員の一員として、そして住民として、活動に参加。

(2) 社会教育委員に求められること

- ・進む方向を見極め、評価をすること。地域コミュニティの強化につながっているか。

Ⅳ 成果と課題

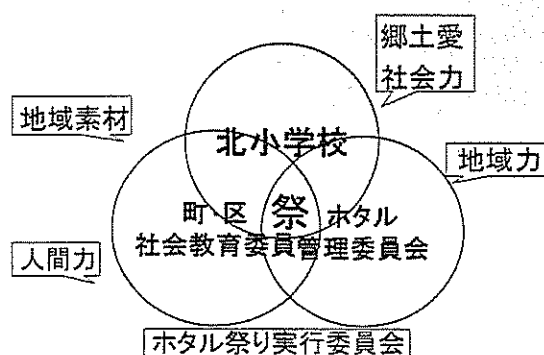
1. 成果

《第3分科会 主な研究・討議の視点より》

A 住民が地域活動に参加・参画するきっかけとなる取組

B 世代間交流を促進する学習機会の充実

繋がりの真ん中に祭りがある



(1) 学校では (B)

子どもたちは、地域の一員としての自覚が芽生え、以前にも増して、地域の行事や伝統芸能などに積極的に参加するようになっていきます。さらに、『ピカリ』飼育を通じて、地域の方々と多様な関係が築かれ、これまで以上に、地域と学校とのつながりが深まっています。高森北小学校には、9つのクラブがありますが、内6つのクラブで、地域の皆さんが講師として指導を行っており、これも、学校と地域の皆さんとのかかわりのなかで実現したひとつの成果であると考えられます。

(2) 地域では (A)

山吹区内の駒場地区、龍口地区、高森北小学校PTAの様子から、大人と子どもが一緒になった動きが生まれています。子どもたちが出汁に使われていないのが特徴で、大切な地域の一員として位置づいています。

(3) 天伯峡ホテル祭りの「熱気」・「活気」・「元気」の源は・・・

地域再生の可能性は・・・

2. 今後の課題 ～社会教育委員として

(1) どの地域にもある「材」を「財」に。それを見抜く目を養う。

(2) 「学びの循環」の振り返りを。

(3) 「横糸」の強い布を織る。そのために社教委は、人と人が関わることのできる「開かれた場」(開かれた地域、開かれた学校等々)を地域の中に創っていく。

第4分科会

社会の要請に関する 学習機会の充実

テ ー マ

受講者主体の市民大学講座の 推進

事例提供者

新潟県妙高市社会教育委員会議 議長

富坂 一長 氏

新潟県妙高市社会教育委員

長崎 一男 氏

助言者

宇都宮大学地域連携教育研究センター 准教授

佐々木英和 氏

コーディネーター

栃木県教育委員会事務局那須教育事務所ふれあい学習課 副主幹

田代 充 氏

第4分科会 会場

日光山輪王寺紫雲閣

テーマ

受講者主体の市民大学講座の推進

I はじめに

1 妙高市の概要

妙高市は、新潟県の南西部に位置し、日本百名山の秀峰妙高山を中心に周辺一帯は上信越高原国立公園に属し、雄大な自然景観と四季折々の変化に富み、湧出量豊富な温泉やたくさんのスキー場など観光地を抱えている。また、平成27年春には北陸新幹線の開業を控えている。

しかし、人口減少・高齢化が進んでいることから、助け合い、支え合えるコミュニティの再構築“地域のこし”が喫緊の地域課題となっており、住民・行政が一体となってその解決に取り組んでいる。

2 妙高市生涯学習の基本方針・目標

(1) 基本方針：妙高市民が生涯を通じた学びにより、心豊かに生きがいを持ち、心身ともに健やかに暮らし続けることができる地域づくりに取り組む。

(2) 基本目標：①豊かな人間性と生きる力を育む教育環境づくり ②子どもの健やかな成長を育む環境づくり ③生涯学習の充実と市民活動の活性化によるまちづくり ④郷土の自然と歴史を生かした芸術・文化のふるさとづくり ⑤スポーツに親しみ心身が健康で活力あるまちづくり

3 妙高市社会教育委員の活動の経緯

(1) 動く社会教育委員への模索(平成19～20年度)

社会教育委員(15名)は公民館運営審議会委員を兼ねており、「市生涯学習計画」の審議会的な役割のみならず、市の事業へ参加・体験をすることで、市民目線で意見具申することもしてきた。しかし、「生涯学習によるまちづくり」という課題に対して、「自分たちにできることは何か」と問い、委員の自主的活動(動く社会教育委員に進化)によって、市民に学びの機会を提供することを2年かけて議論した。

(2) 市民の学習機会の基本計画策定(平成21年度)

生涯学習課事業部会と市民大学講座部会の2つの部会をつくり、各委員が担当した。

○事業部会 : 市生涯学習計画の事業に1人2事業程度を実際に参加し、参加者・市民目線で意見をまとめ、次年度計画の改善点を意見具申する。

○市民大学講座部会: 市民の学習の基本計画策定に取り掛かる。社教委員の自主事業: 妙高市民大学講座「妙高『お宝』はっけん・伝」を企画する。

II 実践内容(平成22年度～)

1 市民主体の「学び」の組織化=市民大学講座:「妙高『お宝』はっけん・伝」の取組

(1) 目的

3市町村が合併した新市「妙高市」を学ぶための巡検・体験活動を中心に、わが市の良さの再認識と地域づくりへの理解者・協力者を育てる。

(2)企画・運営方法

- ① 第1期：1年目(H22)は企画部(正副議長を中心に3名)が機関車役を担い、学びの方向性・進め具合を提案する。全社教委員が実行委員になって、実行委員会を組織する。講座の名称・学習内容・実施時期・講師陣等を検討・決定する。
- ② 行政からの支援(財政面・施設利用等)を得る。
- ③ 2年目(H23)は受講生有志が実行委員に加わり、社教委員と共に計画づくりをする。受講生も2班が一緒になって1つの自主講座運営に参画するなど、8講座中このような方式で3講座を担い、社教委員は5講座を担当した。
- ④ 第2期：1年目(H24)は1班1講座担当制にし、受講生が8講座のうち5講座を担当。
- ⑤ 2年目(H25)は6班編成とし、10講座のうち7講座を受講生各班が自主運営している。

2 講座の実際(内容と反省評価例)

(1)第1期(①平成22年度・②平成23年度)・・・受講料：無料

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① 第1回：開講式・景虎法要見学 | 第5回：国立妙高青少年自然の家見学 |
| 第2回：夢見平植物観察 | 第6回：自主講座「市内企業」見学 |
| 第3回：米粉料理教室 | 第7回：地域づくり活動の見学 |
| 第4回：関山神社火祭り見学 | 第8回：森蘭齋を学ぶ・閉講式 |

<反省評価>

- ・どの講座も評判がよく、参加者は大喜び。参加(出席)率78%と高い。
- ・身近なものが題材であったが、知らないことが多かった。妙高の魅力を再発見した。
- ・地域づくりへの関心が高まった。社教委員の負担大であったが、やりがいを感じた。等

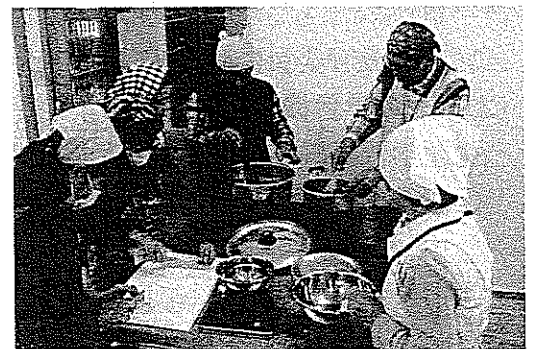
- | | |
|--------------------|----------------------|
| ② 第1回：開講式・山城散策 | 第5回：公開講座「妙高山の形成」等講話 |
| 第2回：地域づくり助成審査会の傍聴 | 第6回：自主講座「市内企業・施設」巡り |
| 第3回：発電所・用水路見学 | 第7回：ブナ林散策ときのご講話 |
| 第4回：自主講座「温泉セラピー体験」 | 第8回：自主講座「介護保険研修」・閉講式 |

<反省評価>

- ・受講生の希望を取り入れた内容もあり、受講者による「自主講座」も3つ実施できた。
- ・振り返りを班単位で行うなど、班活動を多く取り入れまとまりを深めたい。講義が受け身にならないよう、討議や活動場面を多く設定したい。等



H22.6 夢見平植物観察で大感動。



H24.11 完熟トマトソース作りを体験。

(2)第2期(①平成24年度・②平成25年度)・・・受講料：年3,000円

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ① 第1回：開講式・北国街道講演会 | 第5回：北国街道巡検(2) |
| 第2回：北国街道巡検(1) | 第6回：自主講座「市内企業訪問」 |
| 第3回：自主講座「エコ研修」 | 第7回：自主講座「妙高特産品学習」 |
| 第4回：自主講座「防災・救急研修」 | 第8回：自主講座「議会傍聴・ワークショップ」 |

<反省評価>

- ・どの講座も良い評価がたくさんあった。どれも初めてで、新鮮な印象が強い。
- ・議会傍聴で市議会を身近に感じた。本講座の存在をもっと市民にPRすべきだ。
- ・本講座のまとめ(学び・要望等)を、市長部局にも届けたい。等

- ② 第1回:開講式・若手経営者講話 第6回:自主講座「妙高山形成現地視察」
第2回:自主講座「北国街道巡検(3)」 第7回:上下水道施設見学
第3回:自主講座「春の自然散策」 第8回:自主講座「紙漉き体験(2)」
第4回:自主講座「紙漉き体験(1)」 第9回:市長懇談・ワークショップ
第5回:自主講座「地域づくり視察」 第10回:自主講座「早春雪上散策・閉講式」

Ⅲ 社会教育委員の役割

1 市民のための「学習の機会」を提案・実践

- ・市民の自主的で自立した「趣味・カルチャー」講座・教室とは違う、いわゆる「まちづくりや地域づくりに関連する観点」からの学習の機会を提案し、実践しようとした。

2 講座受講者の意識を引き上げるための働きかけとしくみづくり

- ・受講者が自ら動いて決める「自主講座」を取り入れた。(最終的には全内容を自主的に行う)
- ・内容により社教委員が一緒に行動し、支援することも考慮した。
- ・班づくり(班内に役割分担制をとりいれて)をとおして、自主性や自立意識の向上を図った。
- ・翌年度に正副班長経験者を実行委員に推薦し、社教委員と共に実行委員会の構成員となる。
- ・4年目には受講生実行委員の中から、第2期の正副実行委員長を選出するまでになった。

3 市民と行政のパイプ役による、新しい公共の創造に向かった働き

- ・市行政からの財政面・施設利用等の支援を受けて、受講者(市民)の学習欲求に基づく学習内容での講座設定や運営を行い、「地域のこし」に繋がる学習機会を市民に提供できた。

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- ① 受講生の主体性は、発足当初から比べて格段の進歩がみられる。担当講座の立案、見学先や講師との折衝、事前告知プリント作成。出席確認から講座の進行等、一切を取り仕切っている。
- ② 受講生の地域づくりへ主体的にかかわろうとする意識については、「当市の良さや恵まれた自然環境等、自信を持って人に勧められる。未来を担う子どもに、学んだことを伝えたい。知らなかった人、懐かしい人、顔見知りの人との繋がりができ有意義だった。妙高市を知ること以上に、受講生の方々との触れ合いが宝物である」など、受講生個々の趣味の追求や教養を高めただけでなく、学んだ知識や教養を社会に返す、未来に伝える気運が高まりつつある。更に、受講生実行委員の中から、公募枠で社教委員に任命された方も1名現れた。

2 今後の課題

- ① 受講生の意識(主体的に講座とかかわろうとする)の温度差が大きい。また、受講生の広がりを進めていくことが、今後の継続にとって大切である。
- ② 行政・社教委員には、受講生が「地域活性化・地域のこし」に貢献できる場面設定(契機・繋がり)づくりのための敏感なアンテナ磨きと柔軟な発想が必要となる。また、他機関や組織・団体との連携も視野に入れ、負担感の少ない仕組みを探っていくことも課題である。

第5分科会

未来を支える人づくり

テーマ

豊かな学びを創造する社会教育 委員活動

事例提供者

埼玉県川島町社会教育委員会議 委員長

大森 朋子 氏

埼玉県川島町教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事

神田 雅貴 氏

埼玉県川島町教育委員会事務局生涯学習課 主事補

小島 知美 氏

助言者

宇都宮共和大学子ども生活学部 教授

和田佐英子 氏

コーディネーター

栃木県総合教育センター生涯学習部 社会教育主事

添谷 元良 氏

第5分科会 会場

日光金谷ホテル

テーマ

豊かな学びを創造する社会教育委員活動

I はじめに

川島町は、埼玉県のほぼ中央に位置し、自然環境が豊かな町である。昭和29年に川島領と呼ばれる6か村が合併して川島村が誕生し、昭和47年に町制を施行した。現在の人口は21,547人で漸減傾向にある。主な特産品は、米、いちご、いちじくである。本町の社会教育委員は2年任期で、その構成は、学校教育関係1名、社会教育関係2名、識見者7名の10名である。これまでの活動は、平成21年度までは、年間4回の会議を実施するのみだったが、平成22～23年度は、2年間で34回の会議・打ち合わせを行い調査研究、報告書の作成などの活発な活動を行っている。埼玉県内の社会教育委員活動の状況は、「埼玉県社会教育統計資料(平成24年度)」によると、県内の社会教育委員会議の設置率は96.8%だが、会議の開催は年間1～9回(平均2.8回)、建議答申数は4件にとどまっており、十分な審議が行われているとは言い難い面がある。そこで、本稿では、川島町社会教育委員会議の活動とその成果を紹介し、最後に活動の活性化に向けた提言を行う。

II 社会教育委員の役割

- ①社会教育に関する諸計画を立案すること
 - ②教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること
 - ③②の職務を行うために必要な研究調査を行うこと
 - ④教育委員会の会議に出席して社会教育に関して意見を述べること
 - ⑤教育委員会から委嘱を受けた青少年教育の特定事項について助言と指導をすること
- ※社会教育委員の役割(社会教育法17条より作成)

社会教育委員は、昭和7年に設置され、当時の国策を地域住民に上意下達する指導者の役割が期待されていた。戦後の昭和24年に制定された社会教育法では、民主主義の考え方のもと、国民の意見を政策に反映するために、上記の①から④の役割が定められた。さらに、⑤の役割は、昭和26年の社会教育法改正時に、当時社会教育に関する指導者が少ない状況をふまえて追加されたものである。本町においては、青少年の特定事項に関する依嘱は行わず、審議会としての役割を中心に活動している。

次の第Ⅲ章においては、上記の①から④の役割に基づいて、実践内容を報告する。

III 実践内容

(1)「①社会教育に関する諸計画を立案すること」

平成22年度において、「第4次川島町生涯学習推進総合計画」の策定を行った。社会教育に関する取り組みは、行政計画に基づいて実施される。(計画されていないものは実施されないということでもある)つまり、計画立案は今後の社会教育の方針を左右するもので、社会教育委員の役割は、非常に重要である。本町の場合は、計画内容の審議だけでなく、当時の調査研究のなかで、社会教育現場で指導

者やボランティアが不足している実態を把握していた。そこで、本計画に、人材情報の集約と人材育成を盛り込んだ。現在、その計画が「生涯学習データバンク」(人材バンク)として、制度化されている。

(2)「②教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること」、および「③②の職務を行うために必要な研究調査を行うこと」に関する実践

今後の社会教育行政施策の方針とするための報告書を、教育委員会に提出している。本町は諮問一答申に拠らない方法で実施しており、社会教育委員が現地見学、意見交換会、アンケート調査などを通じて、現状を把握して、その結果に基づいて、報告書を作成している。

【平成22～23年度の取り組み】

研究テーマを「次代を担う子どもたちを育てるために ～家庭・地域・学校のより良い連携を目指して～」として、調査研究を実施した。平成22年度に委員長に就任した大森委員長は、従来の委員会活動が、事務局から提示された資料に対して意見を言う「待ち」の姿勢に疑問を感じていた。さらに、現場実践と理論に優れた東京国際大学の栗原保氏が新規に委員になることで、活動が少しずつ活性化していった。報告を行うためには、調査・研究を行う必要があるという提案には、委員から戸惑いの意見が少なくなかった。

実際の調査研究は、委員全体で地域子ども教室部会などの活動の現場を視察しながら、調査テーマを絞り込み、以下の3部会に分かれて活動が行われた。

- ア 地域子ども教室部会 アンケート 聞き取り調査 座談会
- イ PTA部会 アンケート PTA役員と社会教育委員の意見交換会
- ウ 学校応援団部会 アンケート

調査の中で、現場実践者の意見を聞くことを通じて、指導者やボランティアが不足していることが実感できた。また、現場の意見にふれることで、会議の中の議論が具体的で、活発なものになった。2年間の中で、会議や打ち合わせ等を合計34回行い、報告書には、指導者情報を集約することや指導者を育てることの大切さを盛り込んで作成することができた。

【平成24～25年度の取り組み】

平成24年には委員の委嘱替えが行われ、6名の新規委員を迎えて新たな活動が開始された。研究テーマは協議の結果、「川島町の各地域・各世代の食に関する学びをひろげるために」に決定した。具体的な活動は下記の表1のとおりで、社会教育委員の役割に関する研修会(※1)、保健センター栄養士を会議に招いて情報収集(※2)、「地域の食に関する座談会(※3)」を実施した。上記の※1～3の結果をもとに、平成25年4月にアンケート調査を実施した。現在、これまでの調査結果をもとに、全体会議と全体を2つに分けた部会を織り交ぜて、報告書の作成を行っている。

表1 平成24～25年度会議実績

会議日程	会議・協議内容
平成24年度 4月24日	・社会教育委員の役割 ・川島町の生涯学習(年間事業計画) ・平成22～23年度社会教育委員報告 ・平成24～25年度の活動方針
6月19日	・研修会(テーマ「社会教育員に求められる3つの目」 社会教育委員の役割 について研修を行った ※1) ・新旧委員による意見交換会
8月30日	・社会教育委員会の調査、研究の意義・平成22・23年度の報告を振り返って ・平成24・25年度における社会教育委員会の調査、研究の内容
11月16日	・調査研究の全体枠組みと今後のスケジュール
1月23日	・関東甲信越静社会教育研究大会における発表 ・調査研究の方向性 ・「食に関するボランティア活動」の情報提供(保健センター栄養士 ※2)

2月21日	・意見交換「地域の食に関する座談会」(※3)(JA女性部、民生委員・児童委員、食生活改善推進委員、PTA、日本赤十字奉仕団、保健センター、給食センター、農政産業課から、合計8名と社会教育委員で行った)
平成25年度 5月27日	・社会教育委員の役割 ・平成25年度生涯学習の重点基本目標と推進事業 ・平成25年度川島町社会教育委員会年間計画 ・報告書の骨子の協議
6月28日	・報告書の骨子の協議 ・関東甲信越静社会教育研究大会の原稿の協議
7月31日	・報告書の骨子の協議 ・関東甲信越静社会教育研究大会の原稿の協議

(3)「④教育委員会の会議に出席して社会教育に関して意見を述べること」に関する実践

社会教育委員による調査研究の結果を教育委員に提供して、意見交換を行い社会教育のあり方を検討する機会である。本町では、平成22年度より、3回の意見交換会を実施している。

IV 成果と課題

(1)「積極的に活動しよう」と声をあげること

本町の活性化は、人材の条件が恵まれ、社会教育委員と事務局が「積極的に活動したい」という気持ちで一致した点は、幸運であったと考えている。この影響は、近隣市町村の社会教育委員活動の活性化につながっている。さらに、近隣市町村の活性化は、本町にとっても良い刺激となって還元されている。

しかし、かつての活動と比較して、戸惑いを感じる委員も少なくはなく、全体的に一体となっていたとは言いがたい面もある。社会教育委員や事務局は「社会教育をより良いものにしたい」という気持ちはだれでも持っていると思う。しかし、それを声に出し、実際に活動に反映することは容易ではない課題である。本町も「これほど、活動はしなくても良いのでは」と考えたら、すぐに活動は低迷してしまうだろう。

われわれ社会教育委員は、その存在意義を再確認して、活動活性化のために「積極的に活動しよう」と声をあげることが必要だと考える。

(2)小さな積み重ねを大切に

社会教育委員による答申・建議・報告や社会教育計画策定が、社会教育行政に急激な変化を及ぼすことは少ないかもしれない。しかし、その積み重ねを怠ったときの代償は大きなものがある。現在、取り組んでいる調査研究をうけて、本年度中に食育の新規講座の計画が立てられ、前出の「地域の食に関する座談会」を通じて、役場関係課の連携が深まり、さらに地域の食に関する団体と行政のパイプができつつある。地道で、堅実で良いと思う。一步ずつでよいので、地に足をつけた活動を大切にしていきたい。

(3)社会教育委員と担当職員がともに学び、ともに成長すること

本町の平成22・23年度に社会教育委員を担当した職員から、試行錯誤はあったが、とても「自信がついた」という感想があった。社会教育委員としての資質の向上は、担当職員に刺激を与え、成長を促すことになると思う。社会教育行政をより良いものにするには、われわれ社会教育委員と担当職員がともに学び、ともに成長して、より良い活動を創造することが望ましい。